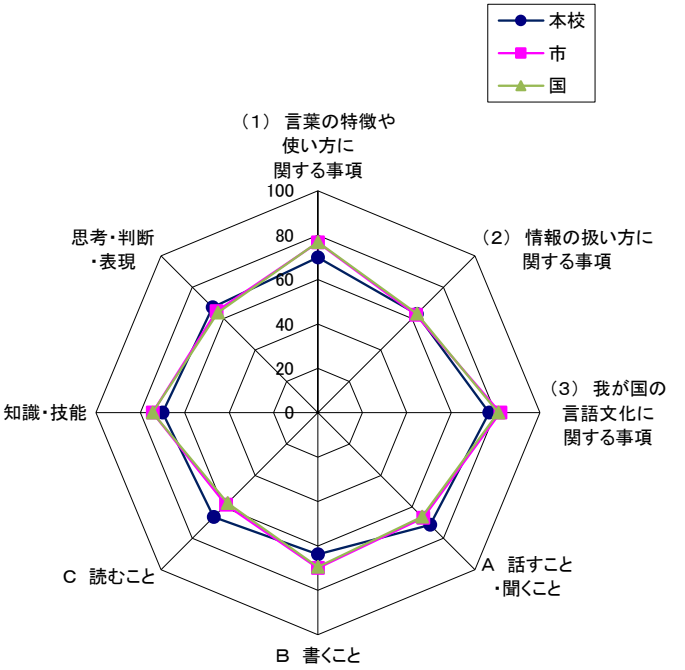


宇都宮市立東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.0	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	62.9	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.1	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	71.4	67.0	66.3
	B 書くこと	63.8	70.0	69.5
	C 読むこと	66.4	58.6	57.5
観点	知識・技能	70.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	67.1	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は70.0%であり、全国の平均を6.9ポイント下回っている。 ●訓読みの漢字を書く問題で、全国平均を上回ったものもあるが、正答率が大きく下回っていたものがある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新しい漢字を習った時には、確実な定着を図るための練習ができるようにする。時間が経つと一度覚えた漢字でも忘れてしまい、間違えることが多くなる。その都度復習を繰り返したり、漢字の学習方法を紹介したりしながら、児童自ら進んで漢字を覚えようという意識をもたせるようにしていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は62.9%であり、全国の平均を0.2ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方について、正しく説明している文章を選択する問題は、全国的に見ても正答率が低い。	・話し合いのメモを見て、その書き表し方を説明するものとして正しい説明を選ぶ問題で正答率が低い。校外学習などで話を聞いて、分かったことを書く学習を積み重ねているが、そのメモの内容は聞いたことを全て書いてあるような児童が多い。今後も、聞いたことを分かりやすく、しかも簡潔にメモをする方法について理解させ、経験させていくようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は77.1%であり、全国の平均を4.1ポイント下回っている。 ●二つの資料を読んで、言葉の違いが世代によるものか、時代の変化によるものか気づくかどうかをみる問題では、正答率が下回っている。	・日本語の移り変わりについては、3・4年で短歌や俳句、5・6年で古文のが扱われている。各自が図書やインターネットで言葉の意味を調べたり、言葉集めをしたりするなど様々な方法で日本語の使われ方の変化に関心をもてるような学習の場を工夫する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は71.4%であり、全国の平均を5.1ポイント上回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題では、11.1ポイント上回っている。	・まず自分の考えをもち、次に友達と話し合い、学級全体で話し合い意見をまとめるという学習を積み重ねた学習効果が成果となって表れている。今後も自分の考えが伝わるよう表現を工夫しながら話す機会を様々な学習で設けていく。
B 書くこと	平均正答率は63.8%であり、全国の平均を5.7ポイント下回っている。 ●段落相互の関係に注意して文章の構成を考えることができるかをみる問題では、11.2ポイント下回っている。	・児童が文章を書くことに抵抗を感じないように、普段から書く活動を取り入れていく。また、目的や相手意識をもたせて書くようにするなど、書く力の向上に取り組んでいこうにしたい。説明文の文章構成なども興味をもって学習できるようにしながら、文章構成などについても様々な方法があることを学ばせていく。
C 読むこと	平均正答率は66.4%であり、全国の平均を8.9ポイント上回っている。 ○時間の経過や事柄の順序を考えて内容の大体を捉えることができるかどうかをみる問題では、12.7ポイント、目的に応じて必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題では、15.1ポイント上回っていた。	・説明文では、何度もめくりながら、粘り強く解答することができたのは、これまでの学習で並行読書や友達の図書案内などを読み比べる活動を積み重ねてきた成果であると考えられる。今後も様々な文章を読み比べる活動を積み重ねていくようにさせたい。また、文章を読み込ませたり、自分の考えを書かせたりする機会を増やししながら文章読解力を身に付けていくようにする。